

## 賛助会員訪問記

日立マクセル株式会社 訪問  
ホームページ : <http://www.maxell.co.jp/>

2017年2月22日13時00分～15時00分、日立マクセル株式会社 京都本社（京都府乙訓郡）を高野良紀総務理事、押木満雅事務局長および斉藤渚事務局職員の3名で訪問した。JR山崎駅（京都より東海道線で大阪方面に約15分）より車で10分ほどの、京都と大阪を結ぶ幹線道路国道171号線に面した工業団地敷地の一角に京都本社があった。

岡藤雅夫 常務取締役、松沼 悟 開発統括本部事業企画部長、IF事業部 IF設計部 山田幸憲 主任技師に應對して頂いた。

エントランスホールで松沼 悟 部長にお会いして、先ず資料館を案内して頂いた。資料館には、創業当時の乾電池の陽極合剤（二酸化マンガンなど）を練る大型の槽潰機（らいかいき：すり混ぜる機械）や乾電池陰極亜鉛缶に詰めるプレス機など古い大型製造装置を展示室の中央部に置き、周囲の壁に製品群が年代順に整然と展示されていた。今はもう使われなくなっている、オーディオカセットテープ、フロッピーディスク、ビデオテープ、MOディスクやMDディスクなど昔懐かしい製品が多く並んでいた。製品群の変遷をみると、電池の陽極合剤を「混ぜる」、「こねる」などの混合分散技術を起源に「塗る」、「切る」そして、そこから「薄膜化」、「プラスチック微細加工」などの技術が派生している。それらの技術を駆使した磁気記録媒体などでその時代を風靡する製品を創出し続けてきた様子が手に取るように理解することが出来た。

会議室に移り、岡藤常務取締役から会社概要、事業内容などを、また山田主任技師より新規開発中の電磁波抑制シートなどの説明を受けた。1961年（昭和36年）に大阪府茨木市でマクセル電気工業株式会社として日東電気工業株式会社（現日東電工株式会社）から乾電池、磁気テープ部門が分離独立して創業を開始。その後、1964年（昭和39年）日立マクセル株式会社に改名し今日に至っている。「マクセル」の社名は、創業製品である乾電池のブランド名『MAXELL (Maximum Capacity Dry Cell=最高の性能を持った乾電池)』に由来している。創業精神の「和協一致。仕事に魂を打ち込み、社会に奉仕したい」をスローガンに乾電池などのエネルギー関連製品、オーディオカセットテープや自動車用光学部品などの産業用部材、シェーバーなどの電器コンシューマー製品など幅広く製品を創出している。一見、無秩序な製品群に思えるのだが、資料室で見た技術変遷、発展の過程および開発技術を生かすモノ作りなどを念頭に置いて改めて見直すと、時代のニーズ—技術開発成果とが自然と融合し合った製品が作られている様子を思い描くことが出来て大変面白く説明を伺うことが出来た。

会社概要説明の後、山田幸憲 主任技師よりイプシロン酸化鉄\*を用いた電磁波障害防止材料の説明を受けた。次世代超高速無線通信において使用されるミリ波帯での電磁干渉を防ぐため、その波帯に吸収を持つ磁性材料が必要となっている。そこでイプシロン酸化鉄に着目し、ゴム系材料に混練した電磁波障害防止シートの開発を行っている。添加金属や処理条件で吸収帯域の制御が可能であり、かつフレキシブルなので曲面に装着することが可能で多くの用途が期待されている。などの説明があった。この開発は、同社の基本技術である、「混ぜる」、「こねる」、「塗る」に根ざしたものであり、今後多くの場面での利用があるのではないかと感じた。

今回の訪問では、普段の生活で使用されている身近な製品についての変遷や開発について伺う事が出来た。製品への親しみからか、説明される内容を明快に理解することが出来た。同社の経営ビジョンである「スマートライフをサポート 人のまわりにやすらぎと潤い」を実現するためのモノづくりに今後も期待したい。

\*：イプシロン酸化鉄について MSJ 技術情報サービス 137.02 号

[http://www.magnetics.jp/tech-info/inf\\_index/inf\\_jikikiroku/137-02/](http://www.magnetics.jp/tech-info/inf_index/inf_jikikiroku/137-02/) に解説がある。

賛助会員訪問記



資料館入口で  
出迎えてくれたマクセル君



創業当時の電池製造機器



桶潰機（らいかいき：すり混ぜる機械）



エントランスホールで